

事業報告書

令和3年度 事業報告

令和3年度においても引き続き、新型コロナウイルス感染症が、小林市社会福祉協議会の進める福祉事業に大きな影響を及ぼしました。地域福祉事業においては、集うことを避けた事業の運営、介護保険事業等においては感染対策を行う中でのサービス提供、相談事業においては、生活福祉資金特例貸付事業の対応や生活困窮者支援など、事業の推進に工夫や新たな対応が求められました。

事業推進については、第1次中長期経営計画（令和2年～令和6年度）に基づき、法人の継続性・安定性を確保するとともに、事業効果の向上と活動の可視化を図りました。

また、令和3年度は第4期地域福祉計画・地域福祉活動計画（令和4年度～令和8年度）の策定を関係機関との協議や地域座談会を開催し、小林市における包括的な支援体制づくりと地域共生社会の実現を目的とした計画を策定することができました。

法人の経営状況については、介護保険事業等の収支の改善が進みませんでしたでしたが、補助金の増額と経費及び人件費の支出を抑えたことにより、法人全体での経常的な収支は改善されています。また、認知症対応型共同生活介護（グループホーム）の認可申請及び建設を行い令和4年4月に開設いたしました。小規模多機能ホーム茶のん村との連携した支援を行うことで認知症の人が明るくいいきいと地域でよりよく暮らしていくことができる環境を整備し、地域における認知症ケアの拠点として地域に開かれた事業運営を行ってまいります。

1 重点項目報告

(1) 社協・生活支援活動強化方針への取組

多機関が協働して支援を行う事業においては、各相談機関や行政の関係課との連携協働を図り、複雑化・複合化した課題を解決していく取組みを行うことで、重層的支援体制整備構築につながる仕組みづくりができてつつあります。

生活福祉資金の新型コロナウイルス感染症特例貸付やフードパントリー、子ども食堂などを行うことで、これまで見えにくかった課題を把握しやすくなったため、支援につながっています。また、新型コロナウイルス感染症の影響により小地域における住民主体の活動が停滞していますが、コロナ禍でも実施できる「ご近所体操」などの新たな地域資源を開発することができました。

(2) 安定した経営と収益改善

令和3年度決算は法人全体での当期活動増減差額がマイナス7,893,277円となり赤字の決算となりました。介護保険事業については、利用者を増やすことができず、前年度に比べて経常的な収支がマイナス6,807,178円となりました。事業所の特色を打ち出せないことや広報活動が十分ではなかったことが原因といえます。法人全体の経常的な収支については、小林市補助金の増額と経費の削減により、収益の改善ができています。

(3) 人材育成の強化と処遇適正化

研修体制は整備しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により外部研修等の機会が少なくなっています。処遇の改善については、経営状況から大幅に実施することはできませんでしたが、すべての職員が将来的に継続して勤務していけるように、諸手当等の改定を行いました。

2 部門別事業報告

(1) 法人経営部門

法人の使命・理念について、各事業所において研修会を行うことで職員が共有し実践する体制を進めました。職員の配置に関しては、正職員1名、限定正職員を2名採用しましたが、退職者も多く必要な職員の確保が困難でした。また、新型コロナウイルス感染症の影響により職員の十分な職員研修が実施できていない状況がありますが、オンラインでの研修など工夫しながら実施しています。事業内容や中長期経営計画と整合性を持たせた体制づくりを行うため、組織編成について検討を行い、処務規程等の改正を行いました。

(2) 地域福祉活動推進部門

地域福祉計画・地域福祉活動計画の策定に併せ、地区・校区社会福祉協議会ごとに座談会を開催し、地域の困りごとやニーズについて共有した上で、13校区・9地区の社別の地域福祉活動計画を策定しました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、サロン等の活動が停滞するなか、身近な場所で気軽に体操等に取り組める環境を整備し、体力向上や健康維持、閉じこもり防止等を住民主体で実施することを目的とし「ご近所体操」を実施しました。

(3) 相談支援・権利擁護部門

令和2年度に続き多機関の協働による包括的支援体制構築事業において、各相談機関や行政の関係課との連携協働を図り、複雑化・複合化した課題を解決していく体制づくりを行いました。多機関協働研修会議や検討会議を実施することができ、複合的な課題を抱える世帯の支援につなげることができました。

また、子ども食堂や小林市つながりの場緊急支援事業（フードパントリー）を実施することにより、子育て世帯への「食」の支援を行うことで子育て世帯の困りごとをより受け止め、支援につなげることができています。

(4) 介護・生活支援サービス部門

令和3年度は通所介護事業所3ヶ所で利用者が減少となりました。要因としては、通所介護事業のサービスのニーズが少なくなっていることが考えられます。収益改善への取り組みとして、通所介護事業所を対象とした介護・生活支援サービス検討会議を開催し協議を行っています。各事業所の方向性の確認を行うことと、次年度以降、介護専門の外部コンサルタントの導入やスポーツ関連企業との連携を図る計画を立てることができています。また、認知症対応型共同生活介護（グループホーム）の指定を受け、建物を建設しました。小規模多機能型居宅介護との連携による事業を行い、利用者へのサービスを充実させ収支の安定を図る体制づくりができました。

役員会開催

会名・年月日	内 容
第1回 理事会・令和3年6月7日	令和2年度事業報告書・会計決算書について 令和3年度第1次会計補正予算書について 評議員選任候補者の推進について 評議員選任・解任委員会の開催について 評議員選任・解任委員会の委員の選任について 評議員会の開催について
第2回 理事会・令和3年6月22日	令和3年度第2次会計補正予算書について
第1回 評議員会・令和3年6月23日	議事録署名人の選任について 令和2年度事業報告書・会計決算書について 令和3年度第1次会計補正予算書について 理事及び監事の選任について
第3回 理事会・令和3年6月24日	会長及び副会長の選定について
第4回 理事会・令和3年9月24日	令和3年度第3次会計補正予算書について 評議員会の開催について
第2回 評議員会・令和3年10月4日	議事録署名人の選任について 令和3年度第3次会計補正予算書について
第5回 理事会・令和3年11月1日	グループホーム茶のん村新築工事の入札契約について
第6回 理事会・令和3年11月1日 (決議の省略による)	令和3年度第4次会計補正予算書について 評議員会の決議について
第3回 評議員会・令和3年11月4日 (決議の省略による)	令和3年度第4次会計補正予算書について
第7回 理事会・令和3年12月16日	経理規程の一部改正について 令和3年度第5次会計補正予算書について 評議員候補者の推薦について 評議員選任・解任委員会の開催について 評議員会の開催について
第4回 評議員会・令和3年12月27日	議事録署名人の選任について 令和3年度第5次会計補正予算書について
第8回 理事会・令和4年3月14日	令和3年度第6次会計補正予算書について 定款の変更について 経理規程の一部改正について 嘱託職員、臨時職員及び非常勤職員就業規則の一部改正について 給与規程の一部改正について 嘱託職員、臨時職員及び非常勤職員給与規程の一部改正について 処務規程の一部改正について 令和4年度事業計画書・会計予算書について 役員等賠償責任保険の加入について 評議員会の開催について
会名・年月日	内 容
第5回 評議員会・令和4年3月25日	議事録署名の選任について 令和3年度第6次会計補正予算書について 定款の変更について 嘱託職員、臨時職員及び非常勤職員就業規則の一部改正について 給与規程の一部改正について 嘱託職員、臨時職員及び非常勤職員給与規程の一部改正について 処務規程の一部改正について 令和4年度事業計画書・会計予算書について

3 事業所別事業報告

小林本所

(1) 法人経営課

ア 総務係

事業の概要

理事会・評議員会の組織運営とともに、財務・人事・労務などの法人運営や総合的な企画、各部門間の調整などを行う社協事業全体の管理（マネジメント）業務にあたる。

令和3年度事業計画・実績・評価

計画	①全職員が法人使命・理念とビジョンを理解し、実践することを目的とし職員研修会を年2回開催する。
実績	会長、事務局長、法人経営課長で各事業所のミーティング等に参加し、法人理念や中長期経営計画についての説明を実施した。また、重層的支援体制整備事業についての研修会を各事業所で実施した。
評価	法人の使命・理念や重層的支援体制整備事業等を含む地域福祉についての、職員への説明を行う研修を行うことができ、成果が認められる。

計画	②現状の正確な分析と課題の設定をもとに、迅速な経営判断を行うことができる意思決定機関を目指す。委員会を3か月ごと、経営会議、経営計画推進部会を毎月実施し、経営計画の進捗管理と収支状況の分析を行う。
実績	中長期経営計画策定・実行委員会は2回、経営会議は12回、経営推進部会は2回実施した。経営計画の進捗状況のヒアリングを実施したが、組織としての分析まではできなかった。
評価	経営における収支の分析が不足している。経営判断を行う会議や計画の評価・見直しを行っている。

計画	③職員の配置と定員の適正化を図るため、正規職員について、中核的な事業を担う職員として必要な定員の確保と育成を図ることを目的とし、採用計画見直しと新規職員研修を実施する。
実績	職員採用試験を実施し、正規職員1名採用した。また、令和3年8月1日付1名、10月1日付1名、令和4年4月1日付3名の限定正職員の採用（内部登用）を行った。
評価	事業の新規や見直し、職員の退職により、職員の配置ができていない事業がある。新規職員研修及び人材育成研修は計画どおり実施できているが内容の検討を行う。

計画	④成長させる教育の仕組みがあり、技術や知識だけでなく、責任感などの意識の向上も含めた福祉のプロフェッショナルが養成できる組織を目指す。職員研修計画の周知及び実施を行う。
実績	職員研修年間計画で計画した接遇研修、交通安全研修、メンタルヘルス研修、虐待に関する研修を実施した。
評価	外部研修について、コロナウイルス感染症対応のため参加できていない。職員の研修機会を確保するため、研修計画の見直しが必要。

計画	⑤業務のマニュアル化によって、高い業務効率と振り返りの仕組み（PDCAサイクル）が構築されている組織を目指す。リスクマネジメント委員会を月1回開催し、マニュアル策定と見直しを行う。
実績	リスクマネジメント委員会を毎月実施することができた。その中で、虐待防止委員会、感染症対策委員会の要綱の作成ができた。
評価	リスクについての共有化が図られている。業務マニュアルの整備が進んでいない事業がある。

計画	⑥組織構成と業務分掌等を見直し、効果的で効率の良い業務と働きやすい環境づくりを行う。処務規程の変更を検討する。
実績	組織編成について検討を行い、処務規程の改正等を行うことができた。
評価	事業の枠組み及び中長期経営計画に沿った、組織の見直しを行った。

計画	⑦会員である市民の理解と協力が得られるよう適宜・適切な情報公開・情報発信を行う。広報委員会を開催する。
実績	広報委員会の作業部会を実施し、作成した社協だよりを広報委員会に諮り、全戸配布することができた。
評価	社協だよりの発行はできたが、ホームページ及び SNS の情報発信を強化する必要がある。

計画	⑧会費や寄付金、募金等の自主財源の確保を目指す。広報営業計画の策定と企業訪問を実施する。
実績	広報委員会の作業部会を実施し、作成した社協だよりを広報委員会に諮り、全戸配布することができた。 寄付金の活用を社協だよりで周知した。また、寄付していただいた企業等について SNS に記事等をアップロードした。
評価	新たな周知方法を模索する必要がある。企業訪問ができていない。

計画	⑨行政（市）との定期的な協議を行う。仕様に沿った適正な積算額の計上及び委託事業の管理費を確保できるシステムの導入を検討する。
実績	行政との定期的な協議ができなかった。
評価	委託事業における管理費についての協議ができていない。

計画	⑩スムーズな情報収集、効率的な IT の活用を行う。記録等タブレットの導入、IC カードによる勤怠管理及びオンライン会議を使用した職員研修を検討する。
実績	勤怠管理システム導入に向け、デモンストレーションを 1 社実施した。比較するために次年度以降も検証を行う。 法人全体研修をオンラインで実施することができた。
評価	効率的な IT の活用をさらに進めていくことが必要。

(2) 地域福祉課

ア 地域福祉係

事業の概要

小地域福祉活動（見守り、サロン活動、生活支援活動他）やボランティア活動の推進、福祉教育、地域福祉推進基礎組織や当事者組織等の支援、共同募金への協力、地域福祉活動計画の策定、地域福祉計画策定への協力など、住民参加や協働による福祉活動の支援や基盤づくりにあたる。

令和 3 年度事業計画・実績・評価

計画	①共同募金 目標額・実績額の維持を図る。特に法人・学校・街頭募金を強化する。新規法人 6 社、街頭募金への 3 学校参加。社協配分金使途の充実度を高める。																																				
実績	一般募金、歳末たすけあい募金 (単位:円)																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>小計</th> <th>戸別</th> <th>街頭</th> <th>法人</th> <th>学校</th> <th>職域</th> <th>個人募金</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般</td> <td>7,190,333</td> <td>4,660,112</td> <td>463,061</td> <td>374,794</td> <td>122,344</td> <td>894,464</td> <td>675,551</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>歳末</td> <td>1,792,315</td> <td>1,464,002</td> <td>0</td> <td>45,000</td> <td>0</td> <td>236,664</td> <td>46,648</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>8,982,648</td> <td>6,124,114</td> <td>463,061</td> <td>419,794</td> <td>122,344</td> <td>1,131,128</td> <td>722,199</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table>	区分	小計	戸別	街頭	法人	学校	職域	個人募金	その他	一般	7,190,333	4,660,112	463,061	374,794	122,344	894,464	675,551	7	歳末	1,792,315	1,464,002	0	45,000	0	236,664	46,648	1	合計	8,982,648	6,124,114	463,061	419,794	122,344	1,131,128	722,199	8
	区分	小計	戸別	街頭	法人	学校	職域	個人募金	その他																												
	一般	7,190,333	4,660,112	463,061	374,794	122,344	894,464	675,551	7																												
	歳末	1,792,315	1,464,002	0	45,000	0	236,664	46,648	1																												
合計	8,982,648	6,124,114	463,061	419,794	122,344	1,131,128	722,199	8																													
<table border="1"> <tr> <td>内 容</td> <td>災害援助活動(火災見舞金)</td> </tr> <tr> <td>件 数</td> <td>2件</td> </tr> </table>	内 容	災害援助活動(火災見舞金)	件 数	2件																																	
内 容	災害援助活動(火災見舞金)																																				
件 数	2件																																				
<p>目標達成率 一般募金 96.0% 歳末たすけあい 89.6% 新規法人 1 件 募金活動取組校 10 校/25 校 (小中高・専門学校) 募金額 (昨年度比△13,123 円)</p>																																					
評価	募金額は減少。コロナ継続により、新規法人企業への訪問を控えたため目標達成に至っていない。学校単位の取り組みは減少したが、学ボラの街頭募金参加率は向上している。募金額減少により、紅白帽子配布を小学校新 1 年生のみにした。																																				

計画	②地域見守り応援活動推進事業 関係機関と協力事業者との連携が図れ、通報時に速やかな対応が取れるよう支援を行う。また、協力事業所を増やしていく。新規 1 事業者
実績	協定締結数 17 団体 活動件数 4 件 新規業者 0 件 連絡会議 1 回
評価	新規事業者の地域の事業への紹介を行ったことで、締結数は増えなかったが小林市の見守り体制は充実した。

計画	③地域福祉活動計画 現福祉計画、活動計画と地域の現状を検証し、今年度策定に向けた協議を行う。
実績	地域福祉計画の策定に併せ、13校区・9地区社協別の地域福祉活動計画の策定ができた。
評価	第4期地域福祉計画・地域福祉活動計画の策定を行った。

計画	④地域福祉座談会 中学校区での座談会の開催を実施し、小さなニーズから拾い上げ支援につなげる。年間8カ所実施し、地区ごとの活動計画を作成する。			
実績	期日	令和3年6月22日(火)	令和3年6月24日(木)	令和3年6月29日(火)
	会場	アダル	平川コミュニティセンター	社協交流スペース
	対象	南校区社協(本町区)	南校区社協(後川内区)	南校区社協(通り町区)
	参加者数(人)	3名	5名	6名
	期日	令和3年6月29日(火)	令和3年7月6日(火)	令和3年7月15日(木)
	会場	区長宅	社協交流スペース	永田町コミュニティセンター
	対象	南校区社協(新生町区)	南校区社協(南島田区)	南校区社協(永田町区)
	参加者数	4名	6名	5名
	期日	令和3年7月18日(日)	令和3年7月14日(水)	令和3年7月14日(水)
	会場	孝の子公民館	旧茶のん村	旧茶のん村
	対象	南校区社協(南西一の東区)	須木中央校区社協	鳥田町校区社協
	参加者数	12名	4名	4名
	期日	令和3年7月14日(水)	令和3年7月15日(木)	令和3年7月15日(木)
	会場	旧茶のん村	友愛会館	友愛会館
	対象	内山校区社協	栗須校区社協	紙屋校区社協
参加者数	3名	5名	3名	
期日	令和3年7月15日(木)	令和3年7月19日(月)	令和3年7月19日(月)	
会場	友愛会館	社協大会議室	社協大会議室	
対象	のじり校区社協	細野校区社協	三松校区社協	
参加者数	5名	6名	1名	
期日	令和3年7月19日(月)	令和3年7月20日(火)	令和3年7月20日(火)	
会場	社協大会議室	社協大会議室	社協大会議室	
対象	東方校区社協	永久津校区社協	幸ヶ丘校区社協	
参加者数	3名	3名	1名	
期日	令和3年7月29日(金)	校区社協 12カ所 南校区社協 7地区		
会場	社協大会議室			
対象	西小林校区社協			
参加者数	11名			
評価	座談会で実施した地域福祉活動計画の評価を通し、各地域の特色と福祉課題の大枠の理解につながった。各社協で計画を作成し、第4期地域福祉活動計画に掲載した。			

計画	⑤福祉教育 教育委員会や学校教育課等関係機関と協働しながら、福祉教育指導協力員を養成し、福祉教育の充実を図る。福祉教育を延25回実施、講座を行い15名の補助員養成を目指す。
実績	aid養成講座 令和3年10月11日、12月9日 修了者22名(全46名) 福祉教育 実施延べ回数 18回
評価	協力員の養成ができ、福祉教育の内容も充実が図れている。

計画	⑥福祉バザー 福祉バザー単独実施ではなく、他行事との協働を検討する。年6回の実行委員会を行う。
実績	コロナ感染防止により事業中止 実行委員会1回
評価	新型コロナウイルス感染症のため未実施。

計画	⑦ホームスタート ホームスタートの普及促進に努める。SNSで情報発信を行い身近にホームスタートを感じられるよう周知を図る。ボランティアを育成し、訪問件数5件以上を維持する。
実績	利用者 延べ12名 回数 延べ121回 運営推進会議 0回 HV養成講座2回 6名修了 訪問中3件(延べ46回訪問)
評価	年間訪問件数についてはコロナの影響もあり申込控えもみられたが、HV養成講座を2回行い活動可能人材の育成ができた。

計画	⑧子ども食堂 子ども食堂、学習教室が小学校区ごとで実施できるよう支援する。子育て支援課等関係機関と協働し、学校の空き教室、飲食店への協力依頼を行い、身近な居場所づくりを推進する。学習教室5件、子ども食堂新規2件を目指す。																										
実績	<table border="1"> <thead> <tr> <th>実施日</th> <th>利用人数(内訳)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4月10日</td> <td>62 (子ども 28 大人 34)</td> </tr> <tr> <td>5月8日</td> <td>59 (子ども 35 大人 24)</td> </tr> <tr> <td>6月12日</td> <td>101 (子ども 56 大人 45)</td> </tr> <tr> <td>7月10日</td> <td>67 (子ども 41 大人 26)</td> </tr> <tr> <td>8月10日</td> <td>83 (子ども 64 大人 19)</td> </tr> <tr> <td>9月11日</td> <td>コロナウイルス感染拡大のため中止</td> </tr> <tr> <td>10月9日</td> <td>75 (子ども 50 大人 25)</td> </tr> <tr> <td>11月13日</td> <td>115 (子ども 75 大人 40)</td> </tr> <tr> <td>12月11日</td> <td>112 (子ども 69 大人 43)</td> </tr> <tr> <td>1月15日</td> <td>153 (子ども 94 大人 59)</td> </tr> <tr> <td>2月13日</td> <td>コロナウイルス感染拡大のため中止</td> </tr> <tr> <td>3月12日</td> <td>172 (子ども 103 大人 69)</td> </tr> </tbody> </table> <p>今年度についてはフードパントリー利用者へ定期的に情報発信することで、利用者人数は増加している。 10回実施999名利用(子ども615名、大人384名)</p>	実施日	利用人数(内訳)	4月10日	62 (子ども 28 大人 34)	5月8日	59 (子ども 35 大人 24)	6月12日	101 (子ども 56 大人 45)	7月10日	67 (子ども 41 大人 26)	8月10日	83 (子ども 64 大人 19)	9月11日	コロナウイルス感染拡大のため中止	10月9日	75 (子ども 50 大人 25)	11月13日	115 (子ども 75 大人 40)	12月11日	112 (子ども 69 大人 43)	1月15日	153 (子ども 94 大人 59)	2月13日	コロナウイルス感染拡大のため中止	3月12日	172 (子ども 103 大人 69)
実施日	利用人数(内訳)																										
4月10日	62 (子ども 28 大人 34)																										
5月8日	59 (子ども 35 大人 24)																										
6月12日	101 (子ども 56 大人 45)																										
7月10日	67 (子ども 41 大人 26)																										
8月10日	83 (子ども 64 大人 19)																										
9月11日	コロナウイルス感染拡大のため中止																										
10月9日	75 (子ども 50 大人 25)																										
11月13日	115 (子ども 75 大人 40)																										
12月11日	112 (子ども 69 大人 43)																										
1月15日	153 (子ども 94 大人 59)																										
2月13日	コロナウイルス感染拡大のため中止																										
3月12日	172 (子ども 103 大人 69)																										
評価	コロナの影響により、子ども食堂を増やすことができていない。また、本来の子ども食堂を行うことができていないが、他の新規事業などと連携し、困窮家庭等に対し定期的に支援ができています。																										

計画	⑨ボランティアセンター 多様な年代層のボランティア登録者や団体及び受入先を確保し、ボランティアの充実を図る。学生ボランティア50名、新規3団体の登録を目指す。																																																						
実績	<p>ボランティア団体 小林ボランティア連絡協議会加入12団体</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>団体名</th> <th>活動内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>手話サークル木の実会</td> <td>手話講習・手話通訳</td> </tr> <tr> <td>小林市朗読友の会</td> <td>音声訳</td> </tr> <tr> <td>小林地区更生保護女性会</td> <td>更生保護・防犯活動</td> </tr> <tr> <td>愛の訪問ボランティアコスモス会</td> <td>高齢者訪問・募金活動</td> </tr> <tr> <td>小林市母子寡婦福祉協議会</td> <td>一人親世帯レク・母子研修</td> </tr> <tr> <td>障害を考える会</td> <td>障害者福祉の地域理解の推進</td> </tr> </tbody> </table> <p>須木ボランティア連絡協議会加入7団体</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>団体名</th> <th>活動内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>袋ボランティア</td> <td>児童との交流</td> </tr> <tr> <td>永田婦人会</td> <td>清掃・高齢者交流</td> </tr> <tr> <td>夏木ボランティア</td> <td>環境美化・花植栽</td> </tr> <tr> <td>奈佐木ボランティア</td> <td>環境美化・地域交流</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>団体名</th> <th>活動内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小林市赤十字奉仕団</td> <td>献血活動・救命講習</td> </tr> <tr> <td>花みずきの会</td> <td>布遊具作成・貸出</td> </tr> <tr> <td>小林市地域婦人連絡協議会</td> <td>子育て支援・環境美化</td> </tr> <tr> <td>小林市手話通訳者派遣協会</td> <td>手話通訳派遣・啓発活動</td> </tr> <tr> <td>愛のこぼと会</td> <td>施設訪問・福祉ポスト</td> </tr> <tr> <td>小林こすもす家族会</td> <td>地域の偏見・差別撲滅活動</td> </tr> </tbody> </table> <p>ボランティア活動機材貸出</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>物品名</th> <th>回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アイマスク</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>疑似体験セット</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>グランドゴルフセット</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>ペタンクセット</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>車椅子</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>プロジェクター・スクリーン</td> <td>67</td> </tr> <tr> <td>福祉車両</td> <td>50</td> </tr> </tbody> </table> <p>コロナ拡大により団体・企業の訪問ができていないが、LINE登録制にしたことにより個人V0が増加した。 受入先の都合により長期休暇(夏休み)限定ではあったが、昨年とは違った受入先の確保ができた。 個人V0 202名(一般11名、学生191名) 新規V0団体 1団体(有ボラ)</p>	団体名	活動内容	手話サークル木の実会	手話講習・手話通訳	小林市朗読友の会	音声訳	小林地区更生保護女性会	更生保護・防犯活動	愛の訪問ボランティアコスモス会	高齢者訪問・募金活動	小林市母子寡婦福祉協議会	一人親世帯レク・母子研修	障害を考える会	障害者福祉の地域理解の推進	団体名	活動内容	袋ボランティア	児童との交流	永田婦人会	清掃・高齢者交流	夏木ボランティア	環境美化・花植栽	奈佐木ボランティア	環境美化・地域交流	団体名	活動内容	小林市赤十字奉仕団	献血活動・救命講習	花みずきの会	布遊具作成・貸出	小林市地域婦人連絡協議会	子育て支援・環境美化	小林市手話通訳者派遣協会	手話通訳派遣・啓発活動	愛のこぼと会	施設訪問・福祉ポスト	小林こすもす家族会	地域の偏見・差別撲滅活動	物品名	回数	アイマスク	7	疑似体験セット	9	グランドゴルフセット	10	ペタンクセット	2	車椅子	35	プロジェクター・スクリーン	67	福祉車両	50
団体名	活動内容																																																						
手話サークル木の実会	手話講習・手話通訳																																																						
小林市朗読友の会	音声訳																																																						
小林地区更生保護女性会	更生保護・防犯活動																																																						
愛の訪問ボランティアコスモス会	高齢者訪問・募金活動																																																						
小林市母子寡婦福祉協議会	一人親世帯レク・母子研修																																																						
障害を考える会	障害者福祉の地域理解の推進																																																						
団体名	活動内容																																																						
袋ボランティア	児童との交流																																																						
永田婦人会	清掃・高齢者交流																																																						
夏木ボランティア	環境美化・花植栽																																																						
奈佐木ボランティア	環境美化・地域交流																																																						
団体名	活動内容																																																						
小林市赤十字奉仕団	献血活動・救命講習																																																						
花みずきの会	布遊具作成・貸出																																																						
小林市地域婦人連絡協議会	子育て支援・環境美化																																																						
小林市手話通訳者派遣協会	手話通訳派遣・啓発活動																																																						
愛のこぼと会	施設訪問・福祉ポスト																																																						
小林こすもす家族会	地域の偏見・差別撲滅活動																																																						
物品名	回数																																																						
アイマスク	7																																																						
疑似体験セット	9																																																						
グランドゴルフセット	10																																																						
ペタンクセット	2																																																						
車椅子	35																																																						
プロジェクター・スクリーン	67																																																						
福祉車両	50																																																						
評価	個人ボランティアの増加を図ることができた。団体のボランティアについて、高齢化が進んでおり、多様なニーズ対応が困難になっている。																																																						

計画	⑩地域生活支援事業 共生型の拠点づくり（集いの場の立ち上げ支援、未設置区立ち上げ支援）を推進する。ご近所カフェ及び新規サロンを5団体以上立ち上げる。					
	No.	団体名	設立年	No.	団体名	設立年
実績	1	三ツ山コスモス会	平成6年	2	竹山ふれあいいきいきサロン	平成7年
	3	鶴戸原いきいきサロン	平成13年	4	真方一区福祉会	平成12年
	5	真方二区いきいき会	平成12年	6	北西一区友愛会	平成15年
	7	南真方西区長寿会	平成12年	8	南島田いきいきサロン	平成15年
	9	西町二区ふれあい会	平成15年	10	宮前いきいきサロン	平成17年
	11	永久津ウエルネスクラブ	平成16年	12	北西4組いきいきサロン	平成18年
	13	仲間サロン	平成18年	14	下孝の子地区ふれあいサロン	平成18年
	15	孝の子サロン	平成18年	16	平成会	平成18年
	17	4の2友遊サロン	平成18年	18	永田いきいきサロン	平成18年
	19	原サロン	平成18年	20	麓地区サロン	平成18年
	21	夏木サロン	平成18年	22	中河間サロン	平成18年
	23	下九瀬サロン	平成18年	24	堂屋敷サロン	平成18年
	25	奈佐木サロン	平成18年	26	上九瀬サロン	平成18年
	27	今別府ふれあいサロン	平成19年	28	上町北区いきいきサロン	平成19年
	29	橋野本いきいきサロン	平成19年	30	北堤ひまわり会	平成19年
	31	南ヶ丘みやま会	平成19年	32	あたごさろん	平成20年
	33	上町中区いきいきサロン杉の子	平成20年	34	坂元サロン	平成20年
	35	種子田いきいきサロン	平成20年	36	幸ヶ丘菜の花会	平成21年
	37	後川内東部ふれあいクラブ	平成20年	38	なかよし会サロン	平成21年
	39	上永久津高齢者いきいきサロン	平成21年	40	大笹サロン	平成22年
	41	今別府サロン	平成22年	42	跡瀬サロン	平成22年
	43	観音丘生き生きサロン	平成22年	44	天神丁・新地馬場・内馬場サロン	平成22年
	45	陣原サロン	平成22年	46	吉村サロン	平成22年
	47	佐土原・旭いきいきサロン	平成22年	48	生きがいサロン	平成22年
	49	栗須ふれあいいきいきサロン	平成22年	50	柿川内サロン	平成22年
	51	西原サロン	平成22年	52	本町いきいきサロン	平成22年
	53	下ノ原いきいきサロン	平成22年	54	境別府サロン	平成22年
	55	西之原いきいきサロン	平成23年	56	東仲町サロン	平成23年
	57	緑町ふれあいサロン	平成23年	58	瀬戸ノロサロン	平成23年
	59	きりくら いきいきサロン	平成23年	60	響サロン	平成23年
	61	猿瀬サロン	平成23年	62	八所サロン	平成24年
	63	秋社川いきいきサロン	平成23年	64	高山ふれあいサロン	平成24年
	65	池之尾サロン	平成24年	66	あじさい会	平成27年
	67	新田場恵ちゃんクラブ	平成24年	68	西上ノ馬場サロン	平成27年
	69	いきいきサロンスミレ	平成25年	70	橋谷地区公民館茶話会	平成27年
	71	心愛サロン	平成27年	72	栗巣野サロン	平成28年
	73	愛宕町サロン	平成27年	74	緑町区緑の会いきいきサロン	平成28年
	75	谷ノ木ふれあいサロン	平成27年	76	花立原イキイキサロン	平成28年
	77	竹山カフェ あいりす	平成28年	78	西小林北サロン	平成28年
	79	永久津サンライズ	平成28年	80	芹川巢之浦地区サロン	平成29年
	81	大出水いきいきサロン	平成29年	82	茶のん場水流迫	平成29年
	83	仲町茶のん場	平成29年	84	東八幡原サロン	平成30年
	85	お茶のみサロンさくら	平成29年	86	ビニールハウス茶飲ん場なかよし会	平成30年
	87	西梅田交流サロン	平成30年	88	上原サロン	令和元年
	89	See hope	令和元年	90	茶飲み場らんらん	令和元年
	91	東方ふれあいいきいきサロン	令和元年	92	中ノ島愛好会	令和2年
	93	天神クラブ	令和元年	94	坂元地域活動クラブ	令和2年
	95	ご近所カフェひなた	令和2年	96	いきいきにっこりサロン	令和2年
	97	きばろかいサロン	令和2年	98	内山年金会	令和2年
	99	ご近所カフェたまきの	令和2年	100	のじり696会	令和2年
	101	北きりしま冒険遊びの会	令和2年	102	ご近所カフェたんぼぼ	令和3年
	103	ご近所カフェマヒロ	令和3年	104	てげてげサロン	令和3年
	105	サロンオールレア	令和3年	106	健康ハツラツグループ	令和3年
	107	大萩さんさんクラブ	令和3年	108		

新規ご近所カフェ 2団体（たんぼぼ（サロンから移行）、マヒロ）
新規サロン 4団体

実績	生活支援体制整備事業 生活支援コーディネーターを配置し、生活支援サービスの開発やその担い手を養成・発掘などの地域資源の開発やネットワーク化を進めていく。			
	内容	令和3年度 小林市生活支援・地域づくり協議会		
	日時	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止		
	構成団体	17団体		
	内容	生活支援体制整備事業連絡会議		
	構成	長寿介護課、小林市地域包括支援センター、のじり地域包括支援センター、社会福祉協議会(須木支所・野尻支所)、生活支援コーディネーター		
	回数	12回		
	内容	地域資源の開発(介護予防) ふれあい・いきいきサロン及びご近所カフェの立上げ		
	設立団体	西町1区	ご近所カフェたんぼぼ	令和3年4月1日設立(サロンから移行)
		北堤区	ご近所カフェマヒロ	令和3年5月23日設立
		北西3区	てげてげサロン	令和3年6月1日設立
		細野1区	サロンオルレア	令和3年7月1日設立
		仲町区	健康ハツラツグループ	令和3年12月1日設立
		野尻6区	大款さんさんクラブ	令和4年1月4日設立
	内容	色塗りコンテスト(介護予防)		
	件数	395作品(167名)		
内容	ご近所体操(介護予防)			
件数	791名(10月1日～12月31日)、868名(1月1日～3月31日)			
内容	いきいき通信 生活支援コーディネーターだより			
発行日	6月15日号(なつ号)、12月15日号(ふゆ号)			
発行数	28,000部			
内容	集いの場把握件数			
回数	190件			
評価	新型コロナウイルス感染症により、サロン及びご近所カフェの活動が縮小しており、サロン解散4団体 中断2団体となっている。新規事業のご近所体操について多くの参加者があり、地域資源の開発ができています。			

計画	⑩有償ボランティア事業 既存の団体の継続支援と住民への理解をしていただくための説明会の実施及び新規団体の立ち上げ支援を行っていく。		
実績	新規団体 1カ所 南西1の東区(孝の子地区) たすけ愛隊 全8団体 南西2区・北西3区・北西2区・野尻4区・南西1の西区・南真方西区・坂元区・南西1の東区		
評価	目標の1団体の設立ができた。		

計画	⑫校区・地区社会福祉協議会事業 アウトリーチを徹底し、すべての社協で「我が事会議事業」「暮らし見守り協力員配置事業」を推進する。全校区の設置を目指し、今年度重点項目として小林小学校区の社会福祉協議会の立ち上げ支援を行う。		
実績	校区社協13団体、地区社協8団体		
	No.	社会福祉協議会名	設立年
	1	細野校区社会福祉協議会	昭和59年
	3	幸ヶ丘校区社会福祉協議会	昭和59年
	5	永久津校区社会福祉協議会	昭和60年
	7	西町1区社会福祉協議会	平成4年
	9	西町3区社会福祉協議会	平成4年
	11	真方1区社会福祉協議会	平成15年
	13	内山小校区社会福祉協議会	平成18年
	15	のじり校区社会福祉協議会	平成27年
	17	南真方西区・緑町区社会福祉協議会	平成27年
	19	栗須小校区社会福祉協議会	平成29年
	21	南小校区社会福祉協議会	令和2年
	No.	社会福祉協議会名	設立年
	2	三松校区社会福祉協議会	昭和59年
	4	東方校区社会福祉協議会	昭和60年
	6	西小林校区社会福祉協議会	平成3年
	8	西町2区社会福祉協議会	平成4年
	10	仲町区社会福祉協議会	平成5年
	12	須木中央校区社会福祉協議会	平成18年
	14	鳥田町小校区社会福祉協議会	平成18年
	16	紙屋校区社会福祉協議会	平成23年
18	坂元区社会福祉協議会	平成27年	
20	南真方東区・南真方区社会福祉協議会	平成28年	
評価	我が事会議事業実施社協(南小校区、幸ヶ丘校区、紙屋校区、坂元地区) 暮らし見守り協力員配置事業実施社協(西小林、坂元地区)		
	我が事会議及び暮らし見守り協力員配置が進んでいない。各社協の事業充実のための支援を推進しているが、新型コロナウイルス感染症の影響により進んでいない。小林小校区における社協の支援を重点的に実施している。		

計画	⑬災害ボランティアセンター 行政、NPO、社協での3者連携連絡会を年4回開催する。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・災害VC設置及び運営に関する協定(4/1市危機管理課) ・県境四市社協災害相互応援協定(7/2)、左記に関する調整会議(6/24) ・宮崎県、県社協、NPO防災会議及び市内連携会議(8/6) ・防災組織担い手育成講座(8/21講師として参加) ・災害VC設置に係る現地確認及び連携会議(10/8) ・運営訓練はコロナにより中止
評価	関係機関との連携が図ることができ、小林市や他市社協との協定を結ぶことができた。運営訓練ができていない。

計画	⑭社会福祉法人連絡会事業 複数法人間連携による地域貢献の取り組みを地域福祉推進事業や福祉教育事業と連携しながら実施する。
実績	参加法人 17法人 連絡会 2回 子ども食堂支援事業・買い物サロン支援事業・福祉教育キャリア教育事業
評価	参加する社会福祉法人が連携して、地域社会に対しての公益的な活動を行った。

福祉用具の貸出

物品名	前年度末	増加 (購入・寄贈)	減少 (廃棄他)	今年度末	うち、 貸出数	今年度 貸出数	在庫
ベッド	126	4	12	118	113	43	5
車椅子	123	9	14	118	48	38	70
エアーマット	16	0	0	16	0	1	16
スロープ	15	0	0	15	2	3	13
シャワーキャリー	9	0	0	9	2	3	7
昇降いす	18	0	1	17	10	4	7
杖	16	0	0	16	9	8	7
浴槽台(ステップ台)	16	0	2	14	5	1	9
介助バー	17	0	0	17	3	0	14
サイドテーブル	13	0	0	13	4	5	9
オーバーテーブル	14	0	0	14	1	1	13
手押し車	16	4	0	20	10	5	10
歩行器	16	6	0	22	15	13	7

福祉センター(会議室)の貸出

貸出延回数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
大会議室	9	10	15	14	3	3	
和室	1	1	3	3	4	0	
第一会議室	16	16	25	27	14	1	
第二会議室	20	20	28	28	15	1	
第三会議室	8	9	14	13	8	2	
地域交流スペース	27	28	37	27	39	27	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
大会議室	17	18	25	9	9	14	146
和室	2	4	11	6	0	2	37
第一会議室	17	22	21	13	14	14	200
第二会議室	28	26	29	13	14	27	249
第三会議室	9	13	10	7	4	13	110
地域交流スペース	27	35	26	33	31	34	371

福祉バス運行

稼働日数 宝くじ号40人乗

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
宝くじ号	2	0	1	3	0	0	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
宝くじ号	8	11	4	2	0	0	31

イ 相談支援係

事業の概要

無料法律相談をはじめあらゆる相談の窓口として総合相談窓口を開設し、制度の利用や専門機関と連携をして解決に向けた対応を行う。また、相談支援包括化推進員を配置し、市内の多様な相談支援機関や行政等のネットワークを構築し、複合的な課題等の解決のため、支援チームを編成し協働して支援を行う。

指定特定障害者相談支援事業所として福祉サービス等が多様な事業者から、総合かつ効率的に提供されるように利用計画の作成及び支給決定後のモニタリングを実施する。

令和3年度事業計画・実績・評価

計画	①多機関協働検討会議事業（重層的支援体制整備の実施に係る体制構築） 課題を抱える世帯に対し、多機関が協働し支援を行う体制を構築する。多機関協働検討会議を6回以上開催する。		
実績	会議名	開催回数	
	多機関協働検討会議	7回※他機関主催分も含む	
	関係課連携会議	2回	
	多機関協働研修会議	令和4年2月17日 内容：「誰ひとり取り残さない地域を創るために～重層的支援体制整備事業の目指すところ～」 講師：九州保健福祉大学 教授 川崎 順子氏 参加者：70人	
評価	重層的支援体制整備事業実施に向け、関係課との協議を重ね、新規事業への理解を得ることができた。多機関協働研修会議や検討会議も実施することができ、複合的な課題を抱える世帯の支援につなげることができた。		

計画	②総合相談事業 社協の総合相談窓口が地域住民に周知・認知されるよう広報誌年1回、SNS発信6回以上の周知活動を実施する。出前講座を3回以上実施する。			
実績	総合相談事業			
	内容	受付場所	期日	件数
	福祉なんでも相談	小林市社会福祉センター	随時	289
	SNS福祉まるごと相談		随時	24
	無料弁護士相談			
	場所	期日	実施回数	件数
	小林福祉センター	毎月第2・4火曜日	24	110
	須木せせらぎ館	5/13.8/12.11/11	3	6
	野尻町友愛会館	5/18.7/20.11/16.1/18.3/16	5	17
		内容	家庭、破産等	
緊急資金貸付事業				
内容	臨時的な緊急出費に充てる資金の貸付(上限5万円)			
件数	6件			
生活福祉資金貸付事業				
内容	宮崎県社会福祉協議会が実施する資金貸付事業の貸付取次事務			
件数	299件			
	内訳	教育支援資金(就学支度費)	2件 689,000円	
		緊急小口資金(特例貸付)	103件 20,050,000円	
	総合支援資金(特例貸付)	194件 119,900,000円		
評価	広報活動や出前講座は実施できていないが、自立センターと連携し、様々な相談を受けることができています。フードパントリーの実施により、子育て世帯の困りごとをより受け止めることができた。			

計画	④法人内相談事業所会議 法人内の相談事業所同士で研修を行い、相談機能向上に努める。会議年10回、講演会1回実施する。		
実績	会議回数8回	講演会1回	12月15日 田中広輝様
評価	各事業所ごとに担当を決め、計画的に事例検討による研修を実施することができ一定のスキルアップにつながっている。		

計画	⑤指定特定障がい者相談支援事業所 登録利用者数 45 名			
実績	月	合計	利用支援	継続支援
	4	13	6	7
	5	13	4	9
	6	19	9	10
	7	16	6	10
	8	10	1	9
	9	8	2	6
	10	14	4	10
	11	10	5	5
	12	16	0	16
	1	13	2	11
	2	8	4	4
	3	7	1	6
	合計	147	44	103
評価	新規利用相談を積極的受け入れ対応している。目標は未達成。			

登録利用者数 43 名
新規利用者 6 名
利用終了者 2 名

みやぎき安心セーフティネット事業

生活困窮者等の自立を支援することを目的に、関係機関で連携・協働しながら総合生活相談事業や経済的援助を行う。

相談件数(件)	経済的援助件数(件)
1	1

ウ 成年後見センターこばやし

事業の概要

①日常生活自立支援事業

日常生活に不安を抱えている高齢者・認知症高齢者・知的障がいのある方・精神に障がいのある方の福祉サービスの手続きや日常的な金銭管理のお手伝いを専門員・生活支援員が行うことにより地域の中で安心して生活できるよう支援する。

②成年後見制度推進事業

高齢者や障がい者の意思能力や生活状況に応じて成年後見制度を活用し、財産管理や身上監護を中心とする権利擁護サービスを提供する。

令和3年度事業計画・実績・評価

計画	①日常生活自立支援事業 利用者数 40 名を維持し、生活支援員の計画的な養成を行う。							
実績	月	認知症 高齢者	知的 障害者	精神 障害者	その他	合計	うち 新規	うち 解約
	4	20	7	8	8	43	1	0
	5	20	7	8	9	44	1	0
	6	19	7	8	9	43	0	1
	7	18	6	8	9	41	0	2
	8	18	6	8	10	42	1	0
	9	18	6	8	10	42	0	0
	10	18	6	8	9	41	0	1
	11	18	6	8	9	41	0	0
	12	19	6	7	9	41	1	1
	1	18	6	7	9	40	0	1
	2	18	7	7	9	41	1	0
	3	19	7	7	9	42	1	0
						合計	6	6
評価	利用者は 42 件。年度内に 6 件の解約があり、6 件の新規契約をしている。 解約理由は成年後見人等の就任、本人死亡、親族等による管理。 支援が必要な方にはすぐに対応できる体制をとっている。 利用者数は目標達成している。生活支援員の養成は市民後見人養成講座と合わせて実施。							

計画	②成年後見制度推進事業 ・受任件数 44 件を目標とし、自主財源の確保を行う。 ・市民後見人の養成、登録者を対象とした事業を計画する。 ・成年後見に関する広報・普及・啓発活動を推進する。出前講座を 10 件実施する。							
実績	月	受任件数				相談支援活動		
		後見	保佐	補助	うち新規	うち辞任	権利擁護相談支援者数	47
	4	29	5	1	2	1	(うち相談支援終了)	32
	5	29	6	1	0	0	後見移行	5
	6	28	6	1	2	2	日常生活自立支援事業移行	6
	7	28	6	1	1	1	親族管理	1
	8	28	6	1	0	0	死亡	3
	9	28	6	1	0	0	その他	17
	10	28	7	1	1	0	(うち継続支援中)	15
	11	26	7	2	0	2	後見申立作成中(社協受任予定)	7
	12	26	7	2	1	0	後見申立作成中	4
	1	26	7	2	0	0	その他継続支援中	4
	2	26	7	2	0	0		
	3	26	7	2	0	0		
			合計	7	6			
評価	・受任件数は 35 件。当年度の受任件数は 7 件。死亡件数は 6 件。 ・市民後見人について、当年度受講者数は 3 名で全員登録されている。現在の登録数 44 名。うち支援員として活動しているのは 7 名。中核機関つなごとの共催により、西諸地区フォローアップ研修を開催。 ・出前講座は 6 件対応。実習への対応が 12 件、研修の開催が 1 件、合計 19 件に対応。							
評価	受任件数が目標に達していない。							

エ 小林市生活自立相談支援センター

事業の概要

総合相談体制の充実として、「生活困窮者自立支援法」に基づき、経済的に困窮し、最低限度の生活を維持することができなくなる恐れのある生活困窮者が困窮状態から早期に脱却することを支援するため、本人の状態に応じた包括的な相談支援を実施する。

令和 3 年度事業計画・実績・評価

計画	①事業の周知活動を強化し、新規相談者数 85 件を目標とする。							
実績	月	相談者数				支援プラン作成件数	支援活動件数	支援最終件数
		男	女	不明	計			
	4	9	5	0	14	3	329	5
	5	5	7	0	12	6	450	8
	6	14	12	0	26	4	502	5
	7	11	4	0	15	0	446	3
	8	5	9	0	14	3	516	8
	9	4	7	0	11	5	492	8
	10	5	7	0	12	1	506	1
	11	7	9	0	16	6	518	7
	12	1	2	0	3	4	443	5
	1	2	1	0	3	1	463	7
	2	3	2	0	5	2	445	4
	3	10	2	0	12	1	456	8
	合計	76	67	0	143	36	5,566	69
	相談支援活動件数内訳							
	プラン作成	36	センター等での面談		791			
	住宅確保給付金	66	所内会議		12			
	電話相談・連絡	1,376	支援調整会議		2,062			
	自宅訪問面談	103	他機関での情報収集・協議等		1,012			
	ハローワーク等就労同行支援	72	その他の活動		36			
			合計		5,566			
評価	年度当初目標は年間 85 件であったが、実績は 143 件となり、目標件数を大きく上回る状況である。これはコロナウイルスの影響による収入減少や失業が原因と思われる。							
評価	計画目標を達成している。							

計画	②生活困窮者支援における出口支援の充実を図る。新規の社会資源の把握数5件以上、フードバンクの協力者・事業所数5件以上を確保する。																																		
実績	<p>フードドライブ事業 個人や企業等から食品等の寄付を募り、子育て家庭やコロナウイルス感染拡大により家計に影響を受けた世帯に配布する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実施月</th> <th>配布世帯(世帯)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5月</td> <td>101</td> </tr> <tr> <td>8月</td> <td>60</td> </tr> </tbody> </table> <p>フードパントリー事業(小林市つながりの場づくり緊急支援事業) 新型コロナウイルス感染症の終息が見えない中、子育て世帯の生活環境にも影響は及ん最少でも不安な気持ちに寄り添い、地域の子育て世帯を「食」で支援する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実施月</th> <th>配布世帯(世帯)</th> <th>配布世帯人員(人数)</th> <th>内訳</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10月</td> <td>88</td> <td>328</td> <td>子ども 194 保護者 134</td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td>100</td> <td>342</td> <td>子ども 202 保護者 140</td> </tr> <tr> <td>12月</td> <td>100</td> <td>350</td> <td>子ども 208 保護者 142</td> </tr> <tr> <td>1月</td> <td>100</td> <td>359</td> <td>子ども 212 保護者 147</td> </tr> <tr> <td>2月</td> <td>100</td> <td>347</td> <td>子ども 208 保護者 139</td> </tr> <tr> <td>3月</td> <td>100</td> <td>354</td> <td>子ども 214 保護者 140</td> </tr> </tbody> </table> <p>出口支援に関して、就労準備支援事業の利用者が3件あり、また、ハローワークでの求職活動以外に、直接就労を受けていただける企業を数社掘り起こして、支援者の就職に繋げた。 令和3年10月から、市子育て支援課との連携により、小林市つながりの場緊急支援事業(フードパントリー)を実施することにより、子育て世帯の「食」の支援を行っている。</p>	実施月	配布世帯(世帯)	5月	101	8月	60	実施月	配布世帯(世帯)	配布世帯人員(人数)	内訳	10月	88	328	子ども 194 保護者 134	11月	100	342	子ども 202 保護者 140	12月	100	350	子ども 208 保護者 142	1月	100	359	子ども 212 保護者 147	2月	100	347	子ども 208 保護者 139	3月	100	354	子ども 214 保護者 140
実施月	配布世帯(世帯)																																		
5月	101																																		
8月	60																																		
実施月	配布世帯(世帯)	配布世帯人員(人数)	内訳																																
10月	88	328	子ども 194 保護者 134																																
11月	100	342	子ども 202 保護者 140																																
12月	100	350	子ども 208 保護者 142																																
1月	100	359	子ども 212 保護者 147																																
2月	100	347	子ども 208 保護者 139																																
3月	100	354	子ども 214 保護者 140																																
評価	食の支援を行うことで、新たなニーズの把握ができ相談支援に繋がっている。新規の社会資源の把握ができている。																																		

計画	③ひきこもりの相談窓口を掲げ、相談のあった世帯に対し家族支援・本人支援を行う。支援にあたっては専門家を交えた会議で支援状況を協議する。家族会および居場所を立ち上げ、本人および家族の居場所・交流の場とする。支援世帯数3世帯以上、居場所利用者10人を目標とする。																																																																										
実績	<p>ひきこもり支援世帯17世帯 (うち家族会準備会参加10世帯)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">内 容</th> <th colspan="3">ひきこもり家族会準備会 ※令和3年度は毎月第2日曜日実施</th> <th rowspan="2">内 容</th> </tr> <tr> <th>実施月</th> <th>家族</th> <th>本人</th> <th>支援者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4月</td> <td>6</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>懇談</td> </tr> <tr> <td>5月</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>講座(自立センターについて)</td> </tr> <tr> <td>6月</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>講座(生活保護等について)</td> </tr> <tr> <td>7月</td> <td>6</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>講座(ひきこもり地域支援センターについて)</td> </tr> <tr> <td>8月</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>講座(障害年金について)</td> </tr> <tr> <td>9月</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>6</td> <td>講座(ひきこもりに役立つ豆知識な</td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>情報提供・居場所づくりについて</td> </tr> <tr> <td>12月</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>講座(ひきこもり家族教室)</td> </tr> <tr> <td>1月</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>講座(ひきこもり家族教室)</td> </tr> <tr> <td>2月</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3月</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>情報提供・4月の進め方</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>39</td> <td>15</td> <td>27</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	内 容	ひきこもり家族会準備会 ※令和3年度は毎月第2日曜日実施			内 容	実施月	家族	本人	支援者	4月	6	0	1	懇談	5月	2	2	1	講座(自立センターについて)	6月	4	1	3	講座(生活保護等について)	7月	6	2	3	講座(ひきこもり地域支援センターについて)	8月	4	3	5	講座(障害年金について)	9月					10月	2	2	6	講座(ひきこもりに役立つ豆知識な	11月	2	2	3	情報提供・居場所づくりについて	12月	3	1	2	講座(ひきこもり家族教室)	1月	5	1	2	講座(ひきこもり家族教室)	2月					3月	5	1	1	情報提供・4月の進め方	合計	39	15	27	
内 容	ひきこもり家族会準備会 ※令和3年度は毎月第2日曜日実施			内 容																																																																							
	実施月	家族	本人		支援者																																																																						
4月	6	0	1	懇談																																																																							
5月	2	2	1	講座(自立センターについて)																																																																							
6月	4	1	3	講座(生活保護等について)																																																																							
7月	6	2	3	講座(ひきこもり地域支援センターについて)																																																																							
8月	4	3	5	講座(障害年金について)																																																																							
9月																																																																											
10月	2	2	6	講座(ひきこもりに役立つ豆知識な																																																																							
11月	2	2	3	情報提供・居場所づくりについて																																																																							
12月	3	1	2	講座(ひきこもり家族教室)																																																																							
1月	5	1	2	講座(ひきこもり家族教室)																																																																							
2月																																																																											
3月	5	1	1	情報提供・4月の進め方																																																																							
合計	39	15	27																																																																								
評価	支援世帯は目標達成している。居場所については、今年度準備を行い令和4年4月発足となった。																																																																										

(3) 生活支援課

事業の概要

介護保険サービスや障害福祉サービス、行政からの委託・補助で行うサービスについて、事業を安定的に継続するため、採算状況やサービス提供状況について把握・分析し経営判断を行っていく。「住民のニーズに応える事業・活動を実施する」という社協の原点に立ち、地域の福祉ニーズに応じたサービスを展開する。

令和3年度事業計画・実績・評価

計画	①介護保険事業等における収益増加に努め、職員の処遇向上と新たな福祉ニーズに応えるための事業展開を計画的に実施する。介護保険事業等検討委員会を設置し計画策定を行う。 ②「望峰の里デイサービス事業」と「小規模多機能ホーム茶のん村事業」の経営及び「新規施設開設」「拠点の検討」「人材確保」「介護予防、自立支援」について重点的に検討し推進する。
実績	通所介護事業所を対象とした介護・生活支援サービス検討会議を開催した。次年度以降、介護専門の外部コンサルタントの導入やスポーツ関連企業との連携を図る計画を立てることができた。また、グループホーム（認知症対応型共同生活介護事業）の指定を受けることができた。
評価	介護保険事業等における収益増加が図れていない。認知症対応型共同生活介護事業所を開設し、小規模多機能ホーム茶のん村事業と連携した事業推進体制を整えることができた。事業見直しの検討が進んでいない。

計画	③介護職員初任者研修事業を開催する。介護に必要な知識・技術を持ち、地域社会に貢献できる介護職員を養成する。
実績	内 容 介護に必要な知識・技術を持ち、地域社会に貢献できる介護職員を養成
	期 日 令和3年11月24日(水)～令和3年12月24日(金)
	場 所 小林市社会福祉センター会議室
	修了者 7名
	11月から12月にかけて、介護職員初任者研修を実施した。申込者7名あり、全員修了することができた。
評価	申込定員20名に対し7名であった。

ア みどりの丘デイサービスセンター

事業の概要

要介護状態等となった場合において、その利用者が可能な限りその居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、必要な日常生活上の世話及び機能訓練を行うことにより、利用者の社会的孤立感の解消及び心身機能の維持ならびに利用者の家族の身体的・精神的負担の軽減を図る。地域密着型として、地域ニーズに合った事業運営を実施する。法人全体を見た運営を実施する。

令和3年度事業計画・実績・評価

計画	①1日平均利用者数16名					
実績	月	稼働日数	利用平均	合計	介護保険	
					通所介護	総合事業
	4	22	10.3	227	133	94
	5	20	11.6	231	139	92
	6	22	10.2	225	134	91
	7	22	10.0	220	117	103
	8	22	8.6	190	93	97
	9	22	8.9	195	100	95
	10	21	9.0	188	98	90
	11	22	8.3	182	94	88
	12	20	8.7	173	94	79
	1	20	8.2	163	83	80
	2	20	9.8	195	78	117
	3	23	10.0	231	103	128
	合計	256	9.5	2,420	1,266	1,154
	1日平均利用者数9.5名					
評価	計画目標が達成できていない。利用者減、コロナ自粛・入院・入所・要介護から要支援に変更になった方が増えた。					

計画	②みどりの丘だよりの発行
実績	発行回数 12回
評価	利用者獲得のために毎月便りの発行をし、居宅支援事業所・新規事業所等、営業に出かけたが、新規獲得に繋げる事ができていない。

計画	③地域密着型通所介護の制度を理解し、介護技術を高め、利用者サービスの向上を図る。
実績	コロナウイルス感染症対策の為外部講師依頼が難しい状況で、施設で資料を参考にしてミーティングでスキルアップを図った。また、事故報告書を、職員全員で見直し、再発防止に努めた。
評価	コロナウイルス感染症により、外部及び内部研修が十分できていない。

イ 訪問入浴介護係

事業の概要

要介護状態等となった場合においてもその利用者が可能な限りその居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、居宅における入浴の援助を行うことによって、利用者の身体の清潔の保持、心身機能の維持等を図る。

令和3年度事業計画・実績・評価

計画	①パンフレット作成、事業所への広報を行い訪問入浴サービスの周知を図る。 ②1日平均利用者3.5件						
実績	月	訪問入浴介護			介護予防		
		対象者	入浴回数	部分浴	対象者	入浴回数	部分浴
	4	8	57	0	0	0	0
	5	8	53	0	0	0	0
	6	8	53	0	0	0	0
	7	6	40	0	0	0	0
	8	8	39	1	0	0	0
	9	6	35	1	0	0	0
	10	5	35	0	0	0	0
	11	7	35	0	0	0	0
	12	6	34	0	0	0	0
	1	6	32	1	0	0	0
	2	7	37	0	0	0	0
	3	8	47	0	0	0	0
	合計	83	497	3	0	0	0
		月	対象者	入浴回数			
		4	1	12			
		5	1	13			
		6	1	12			
		7	1	13			
	8	1	13				
	9	1	13				
	10	1	13				
	11	1	13				
	12	1	13				
	1	2	17				
	2	2	18				
	3	2	18				
	合計	15	168				
評価	定期的に便りを作成し、利用者や事業所へ配布したが、パンフレットの作成ができなかった。事業所への広報が不足している。						

年間新規利用者 16人 利用終了者 13人
1日平均利用者 2.2件

(4) シルバーランド望峰の里

ア シルバーランド望峰の里デイサービス事業

事業の概要

当施設の設置目的である「在宅高齢者等の生活を支援するため」を念頭におき、利用者が健康で安全な日常生活を地域で送っていただけるよう住民ニーズの把握や適切な職員配置に努める。また、今までの実績や経験を活かし、改革改善に努めながら、安全な施設の管理運営を基本として実施する。

令和3年度事業計画・実績・評価

計画	①1日平均利用者数25名							
実績	月	稼働日数	利用平均	合計	介護保険			自主事業
					小計	通所介護	総合事業	
	4	30	16.9	506	506	280	226	0
	5	31	15.8	490	490	276	214	0
	6	30	16.9	508	508	270	238	0
	7	31	16.2	503	503	271	232	0
	8	31	15.7	487	487	263	224	0
	9	29	17.5	507	507	297	210	0
	10	31	16.4	507	507	291	216	0
	11	30	16.7	502	502	309	193	0
	12	29	16.8	488	488	313	175	0
	1	28	17.2	481	481	305	176	0
	2	28	16.0	447	446	274	172	1
	3	31	15.8	489	489	306	183	0
	合計	359	16.5	5,915	5,914	3,455	2,459	1
平均利用者数 16.5名 目標達成率 66% 新規利用者 要介護 5名 要支援 5名 (利用中止(入所、死亡等)14名) ・新規利用はあったものの、入院後、入所をされる方が多く、利用減少となった。 ・フェイスブックのページを作成し、週1回程度発信を実施。								
評価	計画目標の未達成。SNS, お便り発行等は行ったが、効果は不十分。業務内容の見直しを実施し、改善傾向にある。利用者獲得ため、活動内容の検討が必要。							

イ 高齢者給食センター受託事業

事業の概要

65歳以上の高齢者若しくは障がいのため自力で食事の確保が困難な方に、安否確認を兼ねて自宅まで食事を配達する。

令和3年度事業計画・実績・評価

計画	①関係機関と連携した緊急時対応の強化を図る。緊急時対応研修会年1回の実施								
実績	月	稼働日数	訪問給食サービス					他事業等	合計
			平均	小計	昼食	夕食	利用人員	食数	
	4	30	210.2	6,307	2,140	4,167	211	1,649	7,956
	5	31	211.1	6,545	2,233	4,312	209	1,623	8,168
	6	30	210.9	6,327	2,114	4,213	207	1,659	7,986
	7	31	206.6	6,405	2,115	4,290	203	1,617	8,022
	8	31	200.7	6,221	2,016	4,205	197	1,549	7,770
	9	29	197.2	5,718	1,816	3,902	193	1,529	7,247
	10	31	188.5	5,843	1,870	3,973	185	1,589	7,432
	11	30	167.4	5,022	1,574	3,448	166	1,593	6,615
	12	29	134.2	3,891	1,246	2,645	138	1,470	5,361
	1	28	115.4	3,232	1,072	2,160	115	1,389	4,621
	2	28	102.1	2,860	953	1,907	96	1,366	4,226
	3	31	91.1	2,824	946	1,878	86	1,512	4,336
	合計	359	170.5	61,195	20,095	41,100	2,006	18,545	79,740
			1日平均	56	114	167	52	222	
ミーティングを実施し、利用者状況の共有、サービス向上に励むことが出来た。課題のある利用者に対して、他機関と相談しながら支援を実施できている。									
評価	事業内容見直しにより、食数減少。ハイリスク利用者に対しては、必要な支援を実施できている。								

計画	②身体状況等に応じた栄養相談を行い、食の自立支援を行う。
実績	自主事業の計画策定し、健康型支援配食サービスについては令和4年度より実施予定。短期集中C型訪問栄養改善事業について、モデル事業を実施。
評価	自主事業について、事業開始に向け、協議を行い令和4年度より実施することになった。

ウ 小林第二在宅介護支援センター

事業の概要

在宅で暮らしている高齢者に対してニーズに対応したサービスが受けられるよう行政機関やサービスを行っている機関等との連絡・調整を行う。

令和3年度事業計画・実績・評価

計画	①定期的に介護予防教室を地域で開催し、地域住民の実態を把握し、早期に課題を発見し予防に努める。				
実績	月	訪問		請求実績	
		実人員	延人員	実態把握	食の自立
	4	61	71	61	1
	5	60	64	60	1
	6	42	53	42	5
	7	51	62	51	4
	8	28	44	28	13
	9	24	42	24	17
	10	52	76	52	13
	11	55	65	55	11
	12	41	51	41	7
	1	50	57	50	5
	2	86	93	86	5
	3	52	60	52	6
合計	602	738	602	88	
評価	新型コロナウイルス感染症の影響にて、介護予防教室を実施することができなかったが、相談援助業務については、必要に応じ対応を行っている。				

(5)小規模多機能ホーム茶のん村

事業の概要

- I. 利用者一人ひとりの暮らし方に合わせ、その人の自宅での1日を思い描きその人にとって必要なことだけを「通い」を通しての提供
- II. 自宅での生活を継続していくことに重点をおき、その人の自宅での暮らし方を理解し自宅でも事業所でも大きな変化がないようにして、その人が自宅での生活で何を支援すべきかを考えながら「泊まり」の提供
- III. 通いでは支えきれない時間帯や内容を必要な時間に必要な分だけを「訪問」にて提供

以上の3つのサービスを柔軟に提供し、緊急時には、臨機応変に対応を行い、小規模ならではの機能を果たしていく。

令和3年度事業計画・実績・評価

計画	①1ヶ月登録人数25名 1日の泊り6名							
実績	登録定員:29人(通い定員:18人/日、泊り定員:9人/日)							
	月	稼働日数	通い			泊まり	登録数	
			利用平均	合計	介護給付			
	4	30	14.7	440	440	0	6.0	26
	5	31	14.9	461	461	0	5.2	26
	6	30	15.1	454	454	0	5.7	26
	7	31	14.5	451	451	0	5.2	27
	8	31	14.8	458	458	0	5.4	28
	9	30	15.6	467	467	0	5.2	27
	10	31	15.4	476	476	0	5.0	29
	11	30	16.1	485	482	3	5.6	29
	12	31	16.0	486	481	5	4.8	28
	1	28	14.7	420	412	8	4.6	28
	2	26	14.5	384	377	7	4.4	28
3	31	15.7	477	472	5	5.5	29	
合計	360	15.2	5,459	5,431	28	5.2	27.6	
評価	1ヶ月平均登録人数27.6名 1日の泊り5.2名 登録人数を大幅に増やすことができた。							

計画	②医療度の高い利用者の受け入れ態勢の充実と職員のスキルアップを図る。外部講師による内部研修年3回開催する。	
実績	看護師によるバルーンカテーテルを挿入した利用者の留意点など勉強し介護職も不安なく観察やケアが出来た。 外部講師の研修は、今年度も新型コロナウイルス感染症の対応により未実施。	
評価	十分な研修が行えていないため、検討が必要。	

(6)介護センター

ア 居宅介護支援係

事業の概要

介護保険制度の理念に基づき高齢者が自立した生活を送れるよう、また高齢化に伴い介護が必要な者に対して、介護相談、介護計画の作成等を行い、支援する。

令和3年度事業計画・実績・評価

計画	①仕事の効率化と職員のスキルアップを図り、支援を充実する。1人あたり月間請求件数27件								
実績	月	合計	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	介護予防	総合事業
	4	135	60	25	23	17	8	1	1
	5	132	60	25	23	15	9	0	0
	6	128	58	25	22	16	7	0	0
	7	130	59	26	25	14	6	0	0
	8	129	55	27	25	15	7	0	0
	9	128	53	26	25	15	9	0	0
	10	130	54	26	26	15	9	0	0
	11	131	57	27	25	14	8	0	0
	12	133	58	30	26	11	8	0	0
	1	124	56	26	22	12	8	0	0
	2	120	54	24	23	12	7	0	0
	3	118	48	26	24	13	7	0	0
	合計	1,538	672	313	289	169	93	1	1
		新規29件 年間平均持ち件数23.2件 年間平均請求件数21.2件 入所、死亡等で中止になった件数20件							
評価	ケアマネ増員、引継ぎ等で職員全員が27件請求に達する事が出来ていない。研修を行っており、スキルアップを図っているが、効率化への取組については取り組んでいない。								

イ 訪問介護係

事業の概要

高齢者や障がい者がその居宅において訪問介護員によって行われる身体介護あるいは生活援助、その他必要な相談、助言を行い要介護者等の自立支援を行うことを目的とする。

令和3年度事業計画・実績・評価

計画	①総合事業において半年間で利用者が自立できるように支援していく。月間利用者数20名 ②介護保険月間利用者40名 障がい福祉サービス利用者20名 ③居宅介護支援事業所や相談支援専門員部会での広報活動を強化する。			
実績	月	介護保険		生活支援
		合計	訪問介護	総合事業
	4	416	318	98
	5	430	329	101
	6	425	315	110
	7	432	335	97
	8	445	346	99
	9	483	393	90
	10	483	398	85
	11	461	369	92
	12	427	342	85
	1	429	351	78
	2	407	332	75
	3	416	331	85
	合計	5,254	4,159	1,095

月	合計	身体障害者	知的障害者	障害児	重度介護	精神障害者	移動支援
4	226	187	4	0	0	33	2
5	131	100	4	0	0	24	3
6	118	79	4	0	0	34	1
7	184	148	4	0	0	31	1
8	209	174	5	0	0	29	1
9	181	142	4	0	0	34	1
10	236	195	4	0	0	34	3
11	207	168	5	0	0	33	1
12	232	197	4	0	0	30	1
1	172	140	4	0	0	26	2
2	152	117	4	0	0	30	1
3	228	184	4	0	0	39	1
合計	2,276	1,831	50	0	0	377	18

①総合事業は、新規1件 年間平均請求件数19件
年間延べ訪問回数1,095回 年間入所等で中止になった件数8件

②介護保険は、目標件数40件 令和3年度新規19件 年間平均請求件数26.9件
年間延べ訪問回数4,159回 入所、死亡等で中止になった件数17件

障がい福祉サービスは、令和3年度新規1件 年間平均請求件数13件
年間延べ訪問回数2,276回 入所等で中止になった件数2件

評価

① 総合事業は、4月からのアセスメント事務作業が増え、入院後に入所される方が多くいたため、目標件数までは届かなかった。自立についての支援を行っている。

②③介護保険は、パンフレット作成し広報活動を行った。新規依頼は定期的にあったが、入院、入所される方が多かったため利用件数増には至らなかった。障がい福祉サービスは、訪問回数増の利用者が増したが、コロナ禍での訪問中止も増加している。パンフレットを配布するなどの広報を行ったが新規依頼がなかったため件数増には至らなかった。

(7) 小林市地域包括支援センター

事業の概要

包括的支援事業である (1) 介護予防ケアマネジメント、(2) 包括的・継続的ケアマネジメント支援事業、(3) 総合相談支援事業、(4) 権利擁護事業に基づいて各事業に取り組む。

令和3年度事業計画・実績・評価

計画	①職員の資質向上を図る。適切なOJT及びOFF-JTの実施と勉強会の開催
実績	研修に関しては、書面において伝達を行っているが、職員会議などでの伝達は実施する事が出来なかった。研修の内容も整理がまだまだ不足している。今後、職員会議において復命の機会を作る必要がある。
評価	いくつかの研修は、準備不足もあり、職員会議で、復命報告が実施できなかった。
計画	②ICTの活用を推進する。タブレットを配備して、ケアプラン作成や相談などの業務を効率化する。業務マニュアルを整備する。
実績	行政とシステム会社(パシフィック)との協議を重ね、タブレットの導入の方向となる。また、今後業務の効率化を考え、ネットワークの構築も考え変更を加えていく 各担当が業務ごとにマニュアル作成し、マニュアル委員会が、チェックを行い、補足や修正を行った。 全体へ周知し、活用していくことはこれからである。
評価	ICTのデモ研修及び行政との打ち合わせを複数回行ってきた。年度末時点の業務全般のマニュアルは完了しており、今後、随時見直しを行っていく。

計画	③センターの広報・周知を強化する。ホームページ・SNS・出前・広報誌の見直しと充実を図る。
実績	「広報こぼやし」やメールマガジン、フェイスブックで広報をおこなった。また、ホームページの見直しも行い、内容の充実を図った。
評価	ホームページは修正を行ったが、フェイスブックの更新が定期的にできなかった。

計画	④高齢者虐待防止・成年後見利用促進を図る。職員内での勉強会・マニュアル作成。虐待防止及び成年後見マニュアルの把握・見直しを行い、年1回研修を実施する。
実績	居宅介護支援事業所連絡会や職員会議で勉強会を行い、虐待マニュアルの再確認と成年後見制度について研修を実施できた。虐待防止および成年後見は包括にとっても重要な要因のため今後も定期的な勉強会を行っていく。
評価	虐待防止の研修や「中核機関 権利擁護推進センター 『つなご』」との連携の促進を図った。

計画	⑤医療との連携を図る。医療連携シート様式の見直し検討を行う。
実績	コロナの影響もあり、各居宅への勉強会は実施できなかった。しかし、シートを活用する事で、医療機関との連携は以前よりもスムーズになりケアプランやサービス事業所へ情報を提供できるようになっている。
評価	関連事業所への活用方法についての勉強会は実施し出来なかったが、メール等で周知を行った。

計画	⑥介護支援専門員に対する支援を行う。居宅連絡会（全体）でのニーズの解決に向けた協議及び解決を行う。（勉強会年1回）
実績	定期的に居宅連絡会議を開催する事で、自立支援の視点の共有や課題解決に向けた研修、一人ケアマネ（事業主）に対してのネットワークの構築なども行う事が出来た。 2月に居宅のケアマネへ勉強会のアンケートも実施し、研修内容についても協議し、研修の充実にも努めていく方向である。
評価	居宅ケアマネへのアンケートを実施し、さらに、随時、居宅ケアマネからの相談対応も行った。

計画	⑦地域課題の解決への取り組み（自立支援）を推進する。生活支援コーディネーターとの資源把握の勉強会や介護保険サービスだけでなく、住民参加型のサービスへつなげていく。自立者5名以上
実績	地域ケア会議や職員会議にて生活支援コーディネーターの情報提供や連携も増え、地域支援や有償ボランティアの活用も増えている。数値化は難しい。 課題として、担当終了後のフォローができていないため、在宅介護支援センターへの実態把握も含め支援していく必要がある。
評価	介護保険サービス利用者が地域の資源を利用し、自立できる方が10名になり、自立支援を達成できた。

計画	⑧地域での介護予防普及を推進する。
実績	パワーステーション 毎週木曜日 参加延べ人数 647人 太極拳教室 毎週水曜日 参加延べ人数 876人 パワーステーションは、コロナの影響で中止期間もあったが、百歳会館や地域でサポーターが中心となって実施している。また、生活支援コーディネーターと協力し地域のパワーステーションの普及も行っている。 太極拳については、コロナの影響で中止の期間もあったが、毎回10～15名程度の参加で実施できた。来年度は、事業としては終了であるが、講師が自主的に開催し教室としては継続する。
評価	パワーステーションの実態確認を行い、生活支援コーディネーターとの連携を図った。

計画	⑨地域の介護予防活動育成支援、ボランティアの育成を行う。認知症サポーターリーダー・介護予防推進員・傾聴サポーター制度の見直しを検討する。
実績	介護ボランティアポイント事業 35人 令和3年度より、地域包括ケア推進サポーターとして、包括関係のボランティアを一つに統合した。今年度62名の登録。今年度よりボランティアの統合が図られたが、サポーターより活動がしにくいとの意見があり、体制の検討を行う必要がある。
評価	サポーター養成講座の受講者が4名であり、目標登録者が未達成であった。

計画	⑩認知症の理解と普及啓発を推進する。認知症サポーターの累計14,000人養成。コスモス手帳・ガイドブックの内容見直しを行う。
実績	認知症サポーター養成講座について、今年度は、学校や事業所等からの依頼があり14回開催し、371名が受講した。学校からは毎年依頼がある。今年度は、地域のキャラバンメイトに講師を依頼することもできた。コスモス手帳とガイドブックについて、在庫もなくなり、暫定的なパンフレットを作成した。
評価	認知症サポーター養成講座について、コロナ発生に伴い、講座が実施できなかったため、371名となり、未達成であった。コスモス手帳の見直しは、行政と共に行った。

計画	⑪認知症の早期発見・対応への支援を強化する。初期集中支援チームのチーム内容検討と愛優見ねっとの受信者の促進(1335人)を図る。
実績	初期集中支援チームは新型コロナウイルス感染症の影響でチーム員会議が実施できない月もあったが、訪問は継続実施しており、専門医へ報告行い連携図ることができている。愛優見ねっとは、行政がシステムの再構築を検討している。
評価	随時、関係機関からの認知症の利用者の紹介・相談に対応し、Drを交え23名のケース検証を行い、認知症の対応支援を行った。

計画	⑫家族介護継続支援事業について、運営の再検討と参加者の拡大を図る。
実績	家族介護者の家族介護者の集い(10回/年) 毎月第2土曜日 介護をされている家族、介護が必要な本人などが集まり、茶話会、情報交換を行った。 コロナ発生に伴い、実施できていない期間があったが、延べ85人/年の参加者があった。
評価	新型コロナウイルス感染症の影響で、開催が制限されたため、外部講師を招いての懇親会が実施できなかった。

計画	⑬校区地区社協と連携した見守り声掛け訓練を年1回以上実施する。
実績	0回
評価	開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で未実施。

在宅高齢者訪問等調査

新型コロナウイルス感染症の影響による高齢者の身体機能の低下等を防ぐため、高齢者宅を市民ボランティアが訪問し、健康状態の確認を行った。

令和3年7月～令和4年3月 市民ボランティア29人 調査件数1,577人

介護予防プラン事業

月	計	介護度別			事業所別	
		要支援1	要支援2	総合事業	包括件数	委託件数
4	419	87	128	204	358	61
5	410	91	122	197	351	59
6	417	98	118	201	359	58
7	420	101	123	196	359	61
8	423	100	125	198	362	61
9	422	103	127	192	361	61
10	420	102	131	187	361	59
11	412	99	129	184	354	58
12	410	99	132	179	356	54
1	393	96	128	169	335	58
2	387	95	133	159	326	61
3	397	92	138	167	336	61
合計	4,930	1,163	1,534	2,233	4,218	712

(8) 須木支所

ア 地域福祉事業

事業の概要

地域福祉計画の基本理念である「地域や暮らしの困り事が早期に発見・解決され、住み慣れた地域でその人らしく、暮らし続けられる福祉のまちづくり」を実現するために以下の事業を実施する。

- ・分野を超えた総合的な相談支援体制が構築され、地域や暮らしの困り事の早期発見・解決につなげるため、行政、民児協、駐在所、在介及び社協の5者による地域ケア会議を開催する。
- ・地域のネットワークを構築するため、行政、区長会、友愛クラブ、民児協、校区社協、ボラ連協、すきむらづくり協議会、商工会等関係機関団体との連携協働を図る。
- ・身近な地域での住民を主体にした助け合いの仕組みづくりや人づくりのため、区長会、友愛クラブ、民児協、校区社協、ボラ連協、すきむらづくり協議会、商工会等関係機関団体が実施する地域福祉推進事業を支援する。

令和3年度事業計画・実績・評価

計画	①地域の困りごとの早期発見・解決に繋げるための業務を行なう。 ・年間の把握件数とその後の対応の見える化を行う。 ・いきいきサロン1団体につき年間1回以上の支援を行なう。 ・校区社協1団体につき年間1回以上の支援を行なう。
実績	・地域の困りごとについて、関係機関で会議を毎月実施し連携ができていたが、把握後の経過や結果の見える化が不足している。 ・コロナ禍において、サロン説明会が開催できず、サロンによって相談や社協から物品借用ができることの周知などが不十分だった。 ・校区社協内の活動がコロナ禍で減り、構成する各区の公民館単位程度での活動はやや実施できていた。須木中央校区社協では、有償ボランティアの研修を実施したが、実施まで結び付けられていない。また、健康維持と地域の見守り活動を組み合わせたウォーキング大会など計画を行ったが、感染拡大で実施できなかった。
評価	サロンについて新型コロナウイルス感染症の影響もあり、地域での活動が少なく支援ができていない。ご近所体操について普及することができた。

計画	②ボランティア活動を推進する。須木地区ボランティア連絡協議会の定例会4回、総会1回、イベント4回の開催を支援する。
実績	県ボラ連によるZOOMを活用したオンラインでの会議等にも参加。 須木地区のボラ連としては、花の植栽は実施できたが、会議やその他の活動がコロナ禍のためやや制限された。ボランティア体験事業を実施。
評価	新型コロナウイルス感染症の影響もあり、ボランティア活動が少なく支援ができていない。

計画	③生活課題を抱え支援を必要とする住民への相談支援・生活支援を行う。総合相談の案内を毎月1回実施する。
実績	須木地区の総合相談の窓口として、毎月回覧文書での広報を行った。
評価	相談件数は増加していない。

職業学習支援事業「ドリーム・ジャンボ学園」

様々な職業学習の支援を行い、子どもの夢の選択肢増加、就労意欲の増進、生活困窮者の連鎖軽減等を目的とする。

内 容	講師の職業についての説明の他、必要な資格や就職するまでの方法等の講話	
回 数	4回(講話3回、最終回は振り返りを実施)	
対象者	須木中学校生徒及び教職員	
講 師 (企業・団体)	元宮崎県教育長	小林市地方創生課
	特例子会社アイエスエフネットハーモニー	

イ 訪問介護事業

事業の概要

利用者が可能な限りその居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、入浴、排せつ、食事の介護その他の生活全般にわたる援助を行う。

令和3年度事業計画・実績・評価

計画	①新規利用者年間5人以上					
実績	月	介護保険			生活支援	新規利用者年間5人
		合計	訪問介護	総合事業		
	4	198	164	34	0	
	5	229	191	38	0	
	6	233	193	40	0	
	7	260	222	38	0	
	8	242	207	35	0	
	9	285	253	32	0	
	10	286	252	34	0	
	11	270	246	24	3	
	12	261	238	23	0	
	1	246	224	22	2	
	2	236	212	24	2	
3	250	225	25	0		
合計	2,996	2,627	369	7		

評価

計画目標は達成されている。
 利用回数は減少。しかし、日頃からの居宅との情報交換とともに、野尻や西小林、細野など幅広い範囲での利用者の受入れをしているため、新規の利用者も獲得できている。

ウ パワリハ倶楽部事業

事業の概要

利用者が可能な限りその居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、必要な日常生活上の世話及び機能訓練を行うことにより、利用者の社会的孤立感の解消及び心身機能の維持並びに利用者の家族の身体的・精神的負担の軽減を図る。

令和3年度事業計画・実績・評価

計画	①要介護者割合70%					
実績	施設等の区分:地域密着型通所介護				定員:18人/日	
	月	稼働日数	利用平均	合計	介護保険	
					通所介護	総合事業
4	22	9.7	213	150	63	
5	21	9.0	189	140	49	
6	22	8.8	193	143	50	
7	22	8.8	194	140	54	
8	22	8.2	181	131	50	
9	22	9.0	197	148	49	
10	21	8.8	184	132	52	
11	22	8.6	189	139	50	
12	20	8.2	164	120	44	
1	20	8.0	159	120	39	
2	20	7.8	155	117	38	
3	23	7.9	181	125	56	
合計	257	8.6	2,199	1,605	594	

施設等の区分:通所型サービスA						
月	介護保険			須木スポーツクラブ		
	稼働日数	利用平均	総合事業	稼働日数	利用平均	自主事業
4	4	2.3	9	5	2.4	12
5	4	2.0	8	4	2.5	10
6	5	2.0	10	4	4.3	17
7	4	2.5	10	5	3.0	15
8	5	1.6	8	4	3.0	12
9	4	1.8	7	5	0.0	12
10	4	1.0	4	4	2.8	11
11	5	1.2	6	4	4.3	17
12	4	1.5	6	4	3.8	15
1	4	1.3	5	4	3.5	14
2	4	2.0	8	4	0.5	2
3	5	1.6	8	5	1.2	6
合計	52	1.7	89	52	2.8	143
要介護者割合 70.1%						
評価	計画目標は達成されている。要介護者の割合自体は増加したが、死亡と入所、入院による利用者数の減少が進んだ。新規利用者獲得ができなかった。					

エ 障害者総合支援事業（居宅介護）

事業の概要

利用者が居宅において日常生活を営むことができるよう、その利用者の身体その他の状況及びその置かれている環境に応じて、人浴、排せつ及び食事等の介護、調理、洗濯及び掃除等の家事、生活等に関する相談及び助言並びに外出時における移動の介護その他生活全般にわたる援助を行なう。

令和3年度事業計画・実績・評価

計画	①新規利用者年間1人以上				
実績	月	合計	身体障害者	知的障害者	精神障害者
	4	110	80	13	17
	5	96	72	13	11
	6	81	64	13	4
	7	87	72	13	2
	8	109	90	13	6
	9	101	86	13	2
	10	35	18	13	4
	11	27	12	12	3
	12	28	12	13	3
	1	19	0	13	6
	2	16	0	12	4
	3	18	0	13	5
	合計	727	506	154	67
評価	年度目標は達成できたが、全体の回数が減少している。				

新規利用者年間1人

(9) 野尻支所

ア 地域福祉事業

事業の概要

住み慣れた地域で、自分らしい住みやすい環境を整えられるよう、地域住民の身近な相談機関として、様々なニーズや福祉課題を把握し、住民が主体的に支えあえる仕組みづくりについて、自主性を重んじ、一方向だけではなく色々な角度から問題提起し協働できるように支援を行っていく。

令和3年度事業計画・実績・評価

計画	①地域の困りごとの早期発見・解決に繋げるための業務を行う。 ・年間1回以上各いきいきサロンに出席し支援を行う。 ・年間1回以上各校区社協の活動に出席し支援を行う。
実績	・関係機関への出前講座講師派遣要請などのサロン活動運営支援や相談対応による運営者の負担軽減を行った。新型コロナウイルス感染症の影響により、休止するサロンもあった。訪問実績は年間17回(10サロン)であり、すべてのサロン訪問ができなかった。 ・各校区社協の会議・行事に参加し、協力・支援を行った。野尻校区社協においては、令和3年度からフードバンク事業を実施されており、支援・協力を行った。各校区社協の活動に積極的に参加し、地域課題についての意見交換等を行いながら活動の支援・協力を行っていく。
評価	・出前講座講師依頼や相談対応をしているが、感染症の影響によりすべてのサロン訪問ができていない。 ・共に地域福祉を担う団体としての関係性を徐々に深めつつある。

計画	②生活課題を抱え支援を必要とする住民への相談支援・生活支援を行う。
実績	弁護士相談・総合相談窓口として、様々な相談に応じるとともに、生活課題解決に向け、在宅介護支援センター、包括支援センター及び各関係機関等につないだ。今後も相談窓口の周知・各関係機関との連携を充実させていく。
評価	総合相談窓口として、住民の抱える各種の相談に対応している。

イ 野尻町保健福祉センター受託事業

事業概要

会議や研修の会場として、部屋の貸し出しを行う。また、災害時の避難場所としても活用する。

令和3年度事業計画・実績・評価

計画	①地域の保健福祉の拠点として住民が利用しやすい環境づくりをおこなう。月間利用者延数300人、月間利用件数40件							
実績	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
	件数	21	34	34	35	18	1	
	月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	件数	31	36	32	20	1	24	287
評価	コロナ過により、感染拡大防止のため中止や休館で利用できない期間もあった。自主事業の開催時など施設利用に際しては、感染予防に十分配慮しながらの利用をお願いしている。今後もフェイスブック等による広報を行い、利用者数増を図っていく。							
評価	新型コロナウイルス感染症の影響で利用者減である。自主事業は概ね計画通り実施できた。							

ウ 野尻高齢者給食センター

事業概要

野尻地区の65歳以上の高齢者若しくは障がいのため自力で食事の確保が困難な方に、安定した食生活を維持し安心して在宅で生活できるよう、安否確認を兼ねて自宅まで食事を届ける。

令和3年度事業計画・実績・評価

計画	①利用者のニーズに対応し、サービス向上を図る。サービス向上に関する検討会議を毎月実施する。									
実績	月	稼働日数	訪問給食サービス				他事業等	合計		
			平均	小計	昼食	夕食	利用人員	食数		
	4	30	55.4	1,661	755	906	61	0	1,661	
	5	31	50.8	1,575	701	874	61	0	1,575	
	6	30	54.4	1,632	714	918	61	9	1,641	
	7	31	48.9	1,515	643	872	54	13	1,528	
	8	31	49.3	1,529	618	911	59	9	1,538	
	9	30	48.7	1,461	571	890	55	0	1,461	
	10	31	47.2	1,464	590	874	54	12	1,476	
	11	30	46.2	1,386	568	818	53	0	1,386	
	12	29	43.2	1,252	540	712	48	8	1,260	
	1	28	42.0	1,177	490	687	49	0	1,177	
	2	28	45.5	1,273	561	712	48	0	1,273	
	3	31	44.9	1,393	632	761	48	10	1,403	
	合計	360	48.1	17,318	7,383	9,935	651	61	17,379	
			1日平均	21	28	54	0	48		
	毎月ミーティングを実施し、利用者の情報共有を行った。再アセスにより利用対象者の要件変更等により、利用者数が減少している。配食サービスにおいては、安否確認を強化し対応することができた。今後、利用者獲得のため、包括や関係機関への広報・周知を行っていく。									
評価	配食数は減少している。利用者満足度は高く、安否確認等サービスは実施できている。									

エ 野尻在宅介護支援センター

事業の概要

在宅で暮らしている高齢者に対してニーズに対応したサービスが受けられるように行政機関や関係機関等への連絡・調整を行う。

令和3年度事業計画・実績・評価

計画	①地域住民の実態把握を行い、早期に課題を発見し、関係機関と連携しながら早期解決に向けての支援を行う。新規相談対応月間10件				
実績	月	訪問		請求実績	
		実人員	延人員	実態把握	食の自立
	4	24	27	24	1
	5	31	33	31	7
	6	56	60	56	2
	7	30	31	30	4
	8	54	54	54	3
	9	50	51	50	4
	10	57	57	57	6
	11	51	54	51	5
	12	61	64	61	5
	1	55	63	55	9
	2	31	41	31	10
	3	100	107	100	1
	合計	600	642	600	57
評価	コロナ過の中ではあったが、実態把握調査目標件数に達することができた。また、高齢者実態把握事業でややリスクの方々などへの訪問により、課題の早期発見に努め、包括や関係機関につなぐことで生活課題の軽減を図ることができた。調査目標件数の達成とともに、関係機関と連携して課題解決に向けた取組ができた。				